

競 技 注 意 事 項

1 競技規則について

本競技会は2025年度日本陸上競技連盟競技規則並びに本競技会要項及び競技注意事項（本注意事項）により実施する。

2 競技場への入場（来場）および競技者受付、競技者インフォメーション（TIC）について

- （1）開門時刻は8時00分とし、南側大トイレ前通路を開放する。南側大トイレ前通路の開放が終わり次第、競技場メインスタンドへの入場口（E階段）を開放する。なお、競技場内外の通路にあたる部分は避難経路にあたるので場所取りを禁止する。
- （2）TICは競技場正面出入口付近に設置する。
- （3）スタートリストに記載ミス（氏名、学年、所属等）があった場合には、当該競技の開始60分前までに本部へ申し出ること。なお、スタートリストの記載事項は、申し込みの際に送信されたデータをそのまま使用している。

3 練習について

- （1）練習は競技場内で行うことができる。競技役員の指示に従い、指定された場所・時間の範囲内で行うこと。ただし、競技運営上、練習を制限することがある。練習中は各々が事故防止に万全を期すこと。
- （2）グラウンド内全体を競技区域とし、入場できるのは、ウォーミングアップ時を含め本競技会に参加する競技者のみとする。また、移動時を除き指導者・引率者等の立ち入りを認めない。
※指導者・引率者等は競技場内のスタンドから助言（指導）を行うこと。
- （3）トラック競技の練習は9時00分までトラック全周を使用してよい。
- （4）周回レースが行われていない時間帯については、バックストレートを開放する。
- （5）練習用ハードルはホームストレートに以下の様に設置する。

種 目	時 間	場 所
中学女子100mH	8:20~9:00	ホームストレート3・4レーン
高校・一般女子100mH		ホームストレート5レーン
中学男子110mH		ホームストレート6・7レーン
高校・一般男子110mH		ホームストレート8レーン

- （6）フィールド競技の練習は競技役員の指示に従って、招集完了後に各々の競技場所で行う。
- （7）練習に必要な用器具は主催者が準備する。個人で持ち込んだ用具を使用して練習場所を占有することを禁止する。

4 アスリートビブスについて

- （1）アスリートビブスは、事前に発表されたスタートリストを確認し各自で作成すること。サイズは**横24cm×縦16cm**を標準とする。色は白地に黒字（2cm）で作成すること。
- （2）胸と背中に確実に固定すること。（跳躍競技は、胸または背部のどちらか一方でよい。）
- （3）トラック競技に出場する競技者は、スタートリストを確認して腰ナンバー標識（1枚）を各自で作成し、右腰やや後方につけること。（リレー競技はアンカーのみつける）サイズは横18cm×縦12cmを標準とする。色は白地に黒字（2cm）で作成すること。

5 招集について

- （1）招集所を100mスタート地点後方に設置する。
 - ① 競技者係の点呼を受けること。その際、アスリートビブス・腰ナンバー標識（トラック競技のみ）のチェックを行う。
※棒高跳は現地招集とする。
 - ② 代理人による点呼は認めず、招集完了時刻を過ぎた場合は当該種目を棄権したものとして処理する。
- （2）各競技の招集開始時刻・招集完了時刻は、タイムテーブルに記載のとおりとする。

- (3) リレーオーダー用紙の提出締切時刻は最初の組の招集完了時刻の60分前とする。リレーオーダー用紙は、招集所に用意してあるものを使用し、1部を作成し競技者係へ提出すること。
- (4) 欠場について
本競技会を欠場する際は、本人または引率者・顧問を通じて、当該競技開始時刻の60分前までに競技者係（招集所：100mスタート地点後方）に申し出ること。

6 競技方法について

(1) トラック競技

- ① トラック競技は全て記録会形式で行い、「選手権」の部の記録のみタイムレース形式で順位を決定する。
- ② トラック競技の計時はすべて写真判定装置を使用する。
- ③ レーン順はプログラム記載順どおりとする。
- ④ 不正スタートをした競技者は失格とする。ただし、小学生は同一競技者が2回の不正スタートをした場合失格とする。ただし、その競技者は競技には参加させ、記録は参考記録とする。
 - 1. 不適切行為（速やかに構えない、「セット」で静止しない、ピクつく等）をした競技者へは、出発係が口頭にて注意を与える。（グリーンカードを提示する。）同一の競技者が同一レースで不適切行為を繰り返した場合は、スタート審判長がイエローカードを提示し警告を与えることがある。
 - 2. 競技会の中で2度の警告が与えられた場合は、レッドカードを提示され競技会から除外される。
※競技会を通しての累積である。
 - 3. リレー競技において除外処分を受けた場合、当該競技は失格となるが、個人種目への出場は妨げられない。
- ⑤ 短距離走・ハードル走・リレーにおいて、スターティングブロックの使用を義務づける。ただし、小学生はこの限りではない。
- ⑥ 短距離走では、競技者の安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走ること。
- ⑦ リレーのメンバー変更についてメンバーのうち少なくとも2人は、そのリレーチームに登録した競技者でなければならない。この要件を満たしている限りは、同一団体で他の種目にエントリーしている競技者を出場させることもできる（TR24.10）。複数チームをエントリーしている場合はチーム間でのメンバー移動を認めるが、同一の競技者が複数のチームで出場することはできない。
- ⑧ リレーにおける第1、第2、第3走者はテイクオーバーゾーン内でバトンパス完了後も自分のレーンにとどまること。
- ⑨ リレーで使用するマーカーは各団体で用意し、レース終了後は必ずはがすこと。
- ⑩ 800m以上のスタートはオープンレーンでおこなう。ただし、組の人数が8人を下回る場合は、セパレートレーンで行う。

(2) フィールド競技

- ① フィールド競技は「選手権」の部のみトップ8を実施し順位を決定する。それ以外は3回の試技でおこなう。
- ② 跳躍種目の競技者は、助走路の外側（高跳は助走路内）に用意したマーカーを2個まで置くことができる。（走高跳においては、個人で用意すること）
- ③ 小学生低学年走幅跳は踏切線を設けて競技を行うが、実測にて計測を行う。
- ④ 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は、大会要項に記載のとおりに行う。ただし、審判長が当日のグラウンドコンディションなどを考慮して変更することがある。
- ⑤ 投てき種目は、大会要項に記載の規格で行う。円盤投（オープン）の試技数は6回とする。

(3) 抗議について

競技の結果または競技進行中に起きた競技者の行為に関する抗議は、競技結果が放送によって正式発表されてから30分以内に、団体の代表者がTICへ申し出ること。審判長が再度検証し、担当総務員を通じて裁定を伝える。

(4) 助力

- ① 競技者が競技場所を離れる場合は、競技役員に申し出なければならない。
- ② ビデオ装置、レコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技場内に持ち込むことはできない。
- ③ グラウンド内は全て競技区域とする。したがって、競技中の助言（指導）は、競技場内のスタンドからのみ行うことができる。グラウンド内からの助言（指導）は、審判長による警告（イエローカード）及び除外（レッドカード）の対象とする。

7 用器具について

競技用具は、主催者が用意したものに限る。ただし、棒高跳は各自の物を使用すること。

8 競技用靴について

- (1) スパイクピンの長さは9mm（走高跳は12mm）以内とし、いずれの場合もスパイクピンの数は11本以内とする。
- (2) 競技用靴に関しては、TR5.2（競技用靴）に準じ、使用された靴に関して審判員が疑義を抱いた場合、競技後に審判長の権限で検査を行うことがある。
- (3) World Athletics (WA) が承認したシューズリストで「No」と記載されている靴については使用ができないので、各自で確認をしておくこと。
<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/technical/shoes/>

9 製造会社のロゴ、ブランド名、デザインマークのついた衣類やバッグ類等について

競技場に製造会社のロゴ、ブランド名、デザインマークのついた衣類やバッグ類等を持ち込む場合、「競技会における広告および展示物に関する規定」を遵守すること。

10 その他

- (1) 2025年度の日本陸上競技連盟競技規則修正点について、特に注意すること。
- (2) 競技中の事故については主催者で応急処置をするが、以後の責任は負わない。
- (3) 届けられた遺失物については、TIC（本部）で保管するが、その他の盗難および紛失に関しては一切責任を負わない。保管期間は競技終了時までとする。
- (4) 盗難防止のため、荷物は各自で責任もって管理すること。
- (5) 記録はその都度、アナウンスおよび掲示で発表する。
- (6) 写真判定などの妨げになるので、競技場メインスタンド下通路およびホームストレートの通行を禁止する。
- (7) 更衣室内の場所取りを禁止する。また、更衣室を利用する際は競技場内扉から出入をすること。
- (8) 前日からの場所取りは行わないこと。